

大谷溜池の旧字図
流域の四角い部分が唐臼です



現在の
大谷溜池

大谷溜池

おおたにためいけ

猛暑の中、大谷溜池（ウータン）を訪れました。

うっそうとした山の中を登っていくと、ひっそりとした山あい
に大谷溜池が姿を現しました。溜池は水位が下がってはいるもの
の静かに水をたたえていました。

この溜池は江戸時代に造られ、『元禄十年築造』（1697）と刻ま
れた石碑が大きな自然石の上に置いてあったそうです。残念なこ
とに、この石碑は昭和23年の水害で流され現在では見ることはで
きません。

溜池の水は、昔から農業用水として利用されてきました。その
ため今でも水利権は、溜池のある上有田地区ではなく、水田が多
い外尾町、原宿が持っています。

溜池の水は、農業用水のほかにも、昔は陶石を砕くための唐臼
に利用されていました。明治時代の^{あさず}字図からもその様子うかが
えます。

現在は、有田の大切な生活用水の供給源にもなっています。有
田の水道水の約25%をまかなっており、今夏の全国的な水不足か
ら有田を守ってくれています。

江戸、明治の昔から有田の農業、窯業をささえ現在でも水道水
の供給源として生き続ける大谷溜池。この溜池こそ、まさに有田
の活力の源であり先人から受け継いだ大切な宝と言えるでしょう。

皿山びとの歌

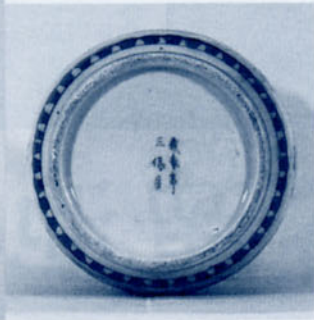
有田町歴史民俗資料館報

No.26

ひさどみ よ じべ え まさやす
久富与次兵衛昌保



高台に「蔵春亭三保造」の銘が入った壺



有田は、よく『世界の有田』と言われます。

それは有田焼が、かつてヨーロッパへ多く輸出され高い評価を受けたことが理由の一つに挙げられます。言いかえるならば、ヨーロッパへの輸出により有田は現在の繁栄へ歩み出したとも言えるからです。

この輸出を手掛けた人々の中に、中野原の豪商・久富与次兵衛の姿がありました。

彼によるオランダ貿易は、天保12年(1841)に佐賀藩から正式に許可を得て行われました。この貿易は、宝暦7年(1757)を境にVOC(オランダ連合東インド会社)の記録から消えるなど衰退していた輸出の本格的な再開でした。

また、彼が活躍した時代は、幕末から明治という変化に富んだ時代でした。有田も廃藩置県による佐賀藩の規制からの解放と、新しい技術の導入による量産体制の確立などにより、再び大きな発展を迎えようとしていました。

与次兵衛による有田焼の輸出は、この発展の一因になったことは言うまでもありません。

このほかにも彼は、有田が文政11年(1828)の大火で大きな痛手をこうむったとき、再建に尽力しています。

彼の家号『蔵春亭』は、この有田の再建や本格的な貿易の再開などの功績により、佐賀藩10代藩主・鍋島直正に賜ったものです。

彼が販売した焼物の高台内には、この家号と彼の

もう一つの名『三保助』から『蔵春亭三保造』『蔵春亭三保製』もしくは『崎陽好三保造』『礪山隠士山畝』などが記してあります。これは高台内に発売元を記した最初でした。

現在でも『蔵春亭三保造』の銘が入った皿や壺などを資料館や有田陶磁美術館で見ることができます。また、彼は泉山の陶石いっぺんとうだった有田焼に天草の陶石をくわえたものを試みたり、釉薬を改良したりして、販売だけでなく製造にも新しい道を探っています。

今では、高台内に発売元をいれることは珍しいことではなく、原料も多くが天草の陶石を使用しています。このことから、彼が先見の明を持っていたことは疑う余地がありません。

彼が持っていた、この常に新しいものを探求する精神と、時代の流れに対応する柔軟性は、そのまま現在の有田につながっています。

有田焼が、よくわかる『子どもパンフレット』

有田焼ってなんだろう？

ほかの焼物とどこが違うのだろう？

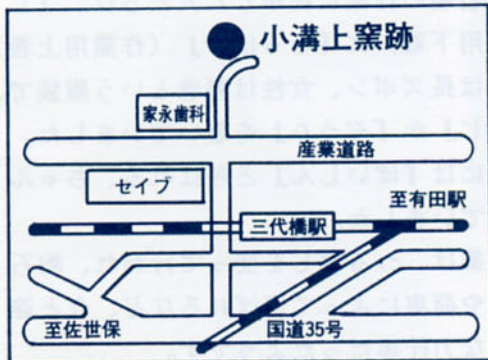
このような疑問を持った子どもたちは多いと思います。小学校では5年生で有田焼や備前焼などを伝統工芸として教えています。このため、子どもたちからの質問の手紙が資料館にも多く届きます。また、



子どものころに持っていた疑問を、そのままにしている人も少なくないのではないのでしょうか。

資料館には、有田焼についてやさしく解説したパンフレットがあります。毎月第2土曜日は小・中・高校生は観覧が無料です。有田焼に興味のある小・中・高校生、そして、有田焼をよく知りたいという人、ぜひ、ご来館ください。お待ちしております。

小溝上窯跡 発掘調査



▲暑さの中、発掘調査は続けられている。

小溝上窯跡は日本の窯業史上、最も重要な遺跡の一つと考えられています。その理由の一つは有田焼の陶祖とされている金ヶ江三兵衛（李参平）や家永壺岐守と関わりがある可能性が高いことによります。すなわち、肥前地区には初期の磁器窯が数多く残りますが、その中でも磁器発祥の窯である可能性が最も高いものの一つと考えられるのです。

佐世保市の「今村家文書」には元禄時代に書かれたとされる古い窯場の記録が残り、それには「小溝山頭三兵衛」とあります。また、「金ヶ江家文書」には三兵衛は有田郷乱橋に住んでいて、その後泉山の陶石を発見し、白川天狗谷に窯を築いたと記されています。乱橋は現在の三代橋付近と思われ、小溝とは程近い場所にあたります。そして、家永壺岐守についても「皿山代官旧記覚書」によれば有田郷小溝原に住んで焼き、その後磁石場を発見し、天狗谷に窯を築いて磁器を焼いた、とあります。いずれの人物にしても小溝ないしその周辺に住み、後に泉山の磁石場を発見し、天狗谷に窯を築いたことは共通しています。過去帳に「上白川三兵衛」と記されていることから金ヶ江三兵衛が没する明暦元年(1655)には確実に関わりがあったと思われる天狗谷窯の出土品の内容には小溝上窯と共通する点が見られます。例えば比較的瓶や碗が多い点などがそうです。古文書の記載の細かな点の記述の真偽はともかく、話の筋としては認めてよいのではないかと思います。つまり、小溝上窯などの有田の西部地区の唐津系陶器

を焼く窯の中で磁器の生産が始まり、その生産が盛んになるにつれて、原料産地である泉山に近い東部地区の天狗谷窯などに移っていったという考えが浮かんでくるのです。

さて、この遺跡は過去3回発掘調査が行われています。1986年には佐賀県立九州陶磁文化館によって調査され、2基の窯体の一部と物原が確認されました。1993年の試掘調査で前記の2基の窯体以外にも窯体が土中に眠っていることを確認しました。そして、年が明けた1994年の調査ではその存在のみが確認されていた窯体を検出することができました。

そして、この夏、4回目の発掘調査を行っています。今回の調査は物原のほとんどが調査区に入るため、調査範囲、期間ともに過去の調査に比べて桁外れなものになり、恐らく出土遺物の量は有田の発掘調査史上、最大規模になるものと思われます。そこで小溝上窯のもつ重要性や調査規模を考慮して、駒沢大学考古学研究会（倉田芳郎教授）と金沢大学文学部考古学研究室（佐々木達夫教授）の協力を得ることにしました。そして、倉田・佐々木両教授の他、幾人かの学識者に調査指導を受けるようにしました。いずれも過去、有田の古窯跡の発掘調査に携わった方たちです。

現在（8月18日）の調査の進行状況としましては主に物原の掘り下げを行っています。そして、1986年の調査で検出された窯体の焼成室の下方では胴木間と焼成室が検出されました。1986年調査の窯と同一の窯か別の窯であるかはまだ不明です。

昨年の調査は雨に泣かされましたが、今年は毎日炎天下のもとで調査が続いています。今年は長い夏になりそうです。（野上建紀）

焼物づくり 今昔

染付有田皿山職人尽し絵図大皿

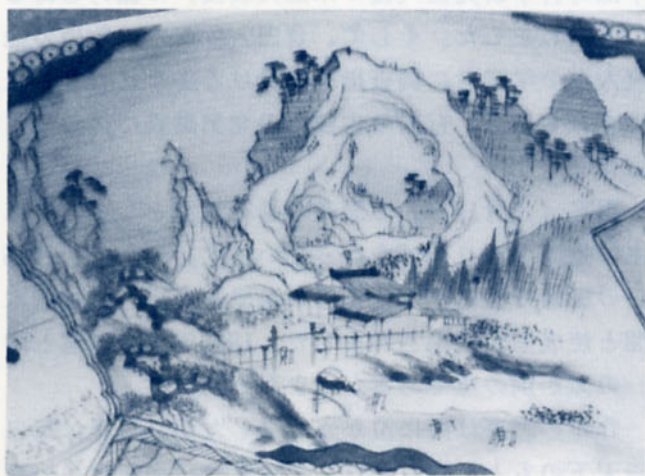


有田焼の歴史は江戸時代の初期から始まります。それから約400年。この間に有田焼は、いろいろな面で変わっていきました。

この中には、今日に至るまでに消えてしまった、昔は当たり前と思われていた焼物づくりの光景が、たくさんあるのではないのでしょうか。

有田陶磁美術館にある『染付有田皿山職人尽し絵図大皿』には、江戸時代の焼物づくりの工程が描かれており、昔の焼物づくりの様子をかいま見ることができます。

この大皿に描かれている数カットの絵から、今の焼物づくりの光景と、消えていった昔の焼物づくりの光景を数回に分けて見ていきます。



大皿の泉山の絵図

1 採石

大皿の絵は泉山の磁石場から始まっています。

切り出し作業は、現在では『はっば』と呼ばれるダイナマイトでいきいきに吹き飛ばして行われます。また、熊本の天草ではブルドーザーで掘り出しています。

では、昔の磁石場の光景は、どうだったのでしょうか。昔の磁石場の作業に従事した人たちは、『じばん』（作業用下着）に『とっぽう』（作業用上着）を着用し、男は長ズボン、女性は腰巻という服装で、足には『わらじ』か『ぞうり』を履いていました。このほか、冬には『ぼいしん』と呼ばれる、ちゃんちゃんこを着ていました。

切り出し作業は、つるはしを使って行われ、陶石は、まるカゴや荷車によって運ばれるなど、今と違い、たいへんな力仕事だったようです。



昔の泉山磁石場作業風景

石場のこだま

8月の民俗調査では、ご協力ありがとうございました。今年は12月に最終的な調査を予定しています。その時は、また、よろしくお願いします。

さて、猛暑という表現がピッタリの夏となりましたが、それももう少しで終わりです。涼しい季節が待ちどおしいこの頃です。(隆)

皿山びとの歌

有田町歴史民俗資料館報 No.26

発行年月日 * 平成6年9月1日

編集・発行 * 有田町歴史民俗資料館

〒844 佐賀県西松浦郡有田町391番地1

☎0955-43-2678 F A X 0955-43-4185